

敬老の日 人生の達人 にきく



渡邊富一さん
(虻4区)

9月17日は敬老の日です。町内にも元気に自宅で過ごしているお年寄りが多くいます。明治、大正、昭和、平成と1世紀に亘り人生を歩んできた達人二人にお話を聞いてきましたので、紹介します。

渡邊富一さんは、明治44年1月10日生まれの96歳。町内の男性長寿第3位ですが、自宅にいる方では最高齢です。現在は息子の富男さん家族と同居されています。耳が遠いので、少し大きな声

で話をしないと通じませんが、現在も家の周りの草取りや日課の体操は欠かさず行っていて、昨年までは、畑仕事もしていたとのこと。健康管理にも、気をつけていて、牛乳と養命酒は毎日欠かしません。奥さんに早く先立たれ一人暮らしが長かったせい、今でも「自分でできることは自分でやる」習慣が身についていて、裁縫などもするそうです。楽しみは、水戸黄門と相撲のテレビ中継。今までを振り返り、富一さんは、「若い時は多少苦労したが、悔いがないいい人生」だと満足そうに話してくれました。



三上スエさん
(虻1区)

三上スエさんは、明治40年11月13日生まれの99歳。これから今年度中に100歳を迎える女性。4人いて、三上さんはそのトップバッター。

現在は、息子の輝男さん家族と同居しています。

間もなく100歳になるスエさんですが、まだまだ足腰がしっかりしていて、今もほとんど毎日畑に行き野菜作りに励んでいます。かかりつけの病院へも自分で歩いて行って、帰りには農協に寄って買物をしてるのが決まりごとになっています。視力もしっかりしていて、新聞は隅々まで読むのが日課の一つです。

「特に楽しみもない」と無欲におしゃったスエさんですが、輝男さんの話では、週2回のデイサービスがお気に入り。特別健康に気をつけていることもないそうですが、3食きちんと食べ、畑で体を動かしているのが、現在の唯一の健康法なのかもしれません。

新しい英語指導助手さんが 赴任しました



コーリ・ハロックさん

コーリ・ハロックさんが、新しい英語指導助手として、ハイデイさんに替わって赴任しました。アメリカのインディアナ州から来ました。町で見かけたら気軽に声をかけてあげてください。

—— 洞爺湖町の印象はどうですか。 ——

町が本当にきれいです。インディアナ州は山も海もありませんので、海も山もあってとても嬉しいのです。

—— 日本食で好きなものは

アメリカに帰って、弁護士になりたいです。

—— 趣味は何ですか。 —— 歌を歌うこと。ハイキング。 —— これから洞爺湖町でやってみたいことは何ですか。 —— 洞爺湖の上のほうから花火を見たい。カラオケにも行きたいです。

—— 将来就きたい仕事は何ですか。 ——

親子で楽しく粘土遊び

親子で楽しいひとときを過ごそうと、洞爺湖町子育て支援センターでは、毎月違った遊びを企画しています。

8月10日には、健康福祉センターさわやかで、小麦粉ねんどを使った遊びが行われ、12組27人の親子が参加しました。

子供らは、手を真っ白くして楽しげに粘土をこねていました。

これからも、毎月1回催されますので、ぜひ参加してみてください。

詳しくは、洞爺湖町子育て支援センター（☎76-2008）へ。



ねんどで遊ぶ親子